

令和元年度 名古屋市障害者差別相談センター市民講演会 「障害のある人もない人も共に生きる地域社会をめざして」 開催報告

1 開催状況

開催日時：令和2年2月11日（祝・火）午後1時30分～4時30分

会場：中区役所ホール

参加者数：491名（満席のため入場制限を行いました）

2 プログラム

<開会>

主催者あいさつ：海野 稔博 健康福祉局長

<第1部> 席上揮毫&講演

書家 金澤 翔子 氏（書道パフォーマンス）

書家 金澤 泰子 氏（講演「天使がくれた贈り物」）

【席上揮毫&講演の概要】

初めに、金澤翔子さんによる席上揮毫を行いました。短いお祈りのあと、躍動感あふれるパフォーマンスで「飛翔」を書きあげました。母の泰子さんが墨の拭き取りのサポートをするなど二人三脚でのパフォーマンスに、会場は大きな拍手に包まれました。

揮毫した作品を会場にお見せしたあと、泰子さんによる講演が始まりました。泰子さんは41歳で翔子さんを授かったのですが、医師からダウン症と診断され、一時は絶望に暮れる日々だったそうです。翔子さんは5歳から書道を始め、「20歳になったら個展を開こう」と言っていた亡きご主人の言葉を支えに2人ががんばってこられたというお話にとっても感動しました。

また、翔子さんが30歳からひとり暮らしを始めて現在も続いていることや翔子さんの恋(?)のお話など、ほほえましいお話をお聞きし、「翔子はダウン症でよかった」と仰ったのがとても印象的でした。

最後に翔子さんが再登場し、大好きなマイケル・ジャクソンの曲に合わせて、ダンスを披露しました。ボイスパーカッションも披露し、サービス精神あふれるパフォーマンスに会場は大興奮でした。

講演後、揮毫した作品「飛翔」をロビーで展示したところ、翔子さんの登場もあり、参加された方は大満足でした。



<第2部>

(1) 「名古屋市障害のある人もない人も共に生きるための障害者差別解消推進条例」の解説
説明：名古屋市健康福祉局 障害福祉部 障害企画課 森 銀次郎 主査

(2) 知的・発達障害疑似体験 & 「こんなときどうする？」の寸劇から伝えたいこと
講師：(福)名古屋手をつなぐ育成会 支援プロジェクト部会「なごやキャラバン隊やろまいか」

【第2部の概要】

まず、平成31年4月に施行された条例について、新たに作成されたガイドブックを使用し説明がありました。

その後、知的障害や発達障害のある方の「障害特性」や「困り感」について理解を深めるため、なごやキャラバン隊やろまいかの皆さんによる「知的・発達障害疑似体験」を行いました。

「絵で描いてください」のコーナーでは、「ボール」や「ちょっと」といったあいまいな言葉や抽象的な言葉は、何を伝えたいのかわかりづらいことを体験しました。

また、写真を見ても自分の興味のある部分しか目に入らないという特性や様々な音が同じ大きさでごちゃ混ぜに聞こえる聴覚過敏の音等本人の見え方・聞こえ方・感じ方を体験しました。

寸劇「こんなときどうする？」では、バス停の場面で待機列の横入りをしてしまう障害者に対する適切な対応方法を学び、ヘルプマークについても学ぶ機会となりました。

最後に東海テレビ制作「見えない障害と生きる。」の映像を見て終演となりました。

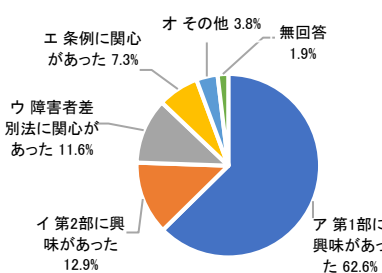


3 アンケート結果

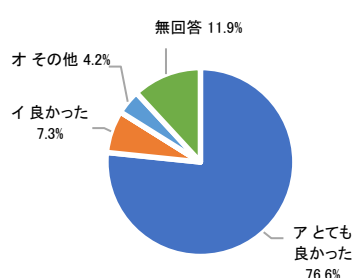
■アンケート回収数：261名（回収率53.2%）

■主な質問と回答内容

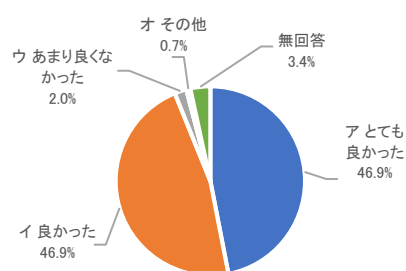
①参加動機



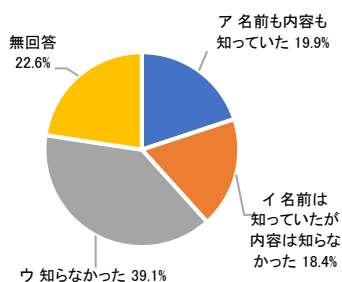
②第1部の満足度



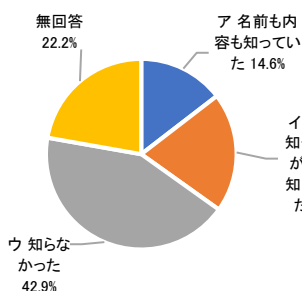
③第2部の満足度



④障害者差別解消法の認知度



⑤市条例の認知度



⑥感想

・生の席上揮毫が見れて感動した。幸せのパワーをもらった。

・「無駄なことはひとつもない」「少数者から気づかされるが多々ある」など感銘を受け涙が出た。

・知的・発達障害の特性を考えるよい機会になった。もっと早く知りたかった。